

資料

平成26年度における生物（動物関係）に関する問い合わせ状況

中島 淳・石間妙子・金子洋平・須田隆一

当所で窓口依頼検査以外で回答した動物に関連する問い合わせの内容について概要をまとめた。平成26年度は電話や持ち込み、電子メールによる質問が52件であった。問い合わせは県庁各課・保健福祉環境事務所等の県機関からのものが32件、市町村からのものが11件、民間業者からのものが2件、一般県民からのものが7件であった。このうち47件は不明種の同定依頼であり、特定外来生物であるセアカゴケグモ疑い種の同定依頼が最も多く29件であった。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、ザトウムシ、マダニ]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定試験を実施しているが、それ以外にも日常的に電話や持ち込み等による生物に関する問い合わせに答えることが多い。本報では平成26年度に寄せられた質問のうち、動物に関連するものについてその内容をまとめた。

2 方法

動物に関連する各問い合わせについて、依頼元を県、市町村、民間業者、一般県民、その他の5つに区分した。また、質問内容については不明種同定依頼、セアカゴケグモ疑い種の同定依頼、マダニ類疑い種の同定依頼、生物多様性・外来種に関するもの、その他の5つに区分して整理した。

3 結果及び考察

表1に平成26年度の月ごとの問い合わせ件数を示す。全体で52件の問い合わせがあり、最も問い合わせが多か

ったのは7月の12件で、次いで5月と6月の7件であった。一方で、12月から3月にかけての問い合わせはいずれも1件と少なかった。全体の問い合わせ件数は平成22年度が24件、平成23年度が24件、平成24年度が57件、平成25年度が68件であり¹⁾²⁾、問い合わせ件数は前年度より減少した。

図1に問い合わせの依頼元と件数を示す。問い合わせは県関係機関からのものが最も多く、次いで市町村、一般県民、民間業者の順であった。県機関では保健福祉環境事務所からの問い合わせが多かったが、ほぼすべての場合において所管市町村あるいは県民からの質問の仲介であった。また、市町村からの依頼も同様に一般市町村民からの質問の仲介であった。依頼元の傾向は平成22-25年度と比較して、大きな違いはなかった。

問い合わせの具体的内容は、セアカゴケグモ疑い種に関する同定依頼が29件と最も多かった(図2)。これは前年度と同様の傾向である。その一方で、前年度多かったマダニ類に対する問い合わせは2件と少なかった。

表1 各月における内容別の問い合わせ件数

質問内容	月												計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
不明種同定依頼	1	1	1	5		4	1	1				1	1	16
セアカゴケグモ疑い	2	6	6	4	1	2	4	3			1			29
マダニ類疑い	1				1									2
生物多様性・外来種					1				1					2
その他	1			2										3
計	5	7	7	12	2	6	5	4	1	1	1	1	1	52

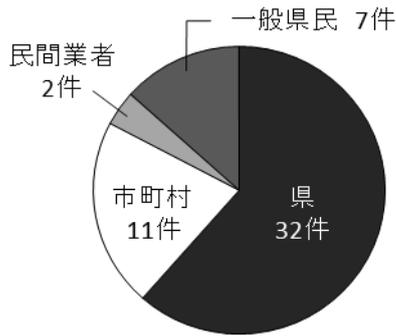


図1 平成26年度における依頼元別の問い合わせ件数

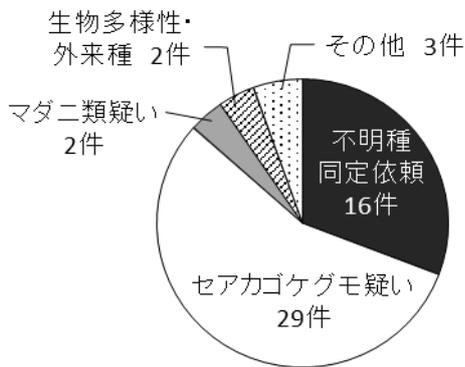


図2 平成26年度における内容別の問い合わせ件数

セアカゴケグモ疑い種の問い合わせは平成22年度、23年度はそれぞれ1件であったにもかかわらず、平成24年度は33件、平成25年度も27件と急増しており^{1) 2)}、本年度も引き続き同様の傾向がみられた。セアカゴケグモ疑い種として問い合わせがあった29件のうち、実際にセアカゴケグモであったのは4件のみで、その他はザトウムシ目の一種が6件、オオヒメグモ5件、コゲチャオニグモ3件、マダラヒメグモ3件、ジョロウグモ2件、ナガコガネグモ1件、カニグモ科の一種1件、ワシグモ科の一種1件、コモリグモ科の一種1件、タカラダニ科の一種1件、ヨコヅナサシガメ1件であった。特にザトウムシ類については、同定依頼のあったすべての個体の背面に赤いタカラダニ科の一種が付着していた。

セアカゴケグモ以外の不明種同定依頼のうち、種まで同定できたのはオオミスジコウガイビル(1件)、フタトゲチマダニ(1件)、オオワラジカイガラムシ(1件)、ビワコカタカイガラモドキ(1件)、コガタノゲンゴロウ(2件)、タバコシバンムシ(1件)、アメリカミズアブ(1件)、ニホンカブラハバチ(幼虫)(1件)、ミノウスバ(1件)、モツゴ(1件)、バラタナゴ(1件)、アオダイショウ(1件)、アオバズク(1件)であった。

この中でコガタノゲンゴロウについての2件の質問は、いずれもゲンゴロウと誤認しての問い合わせであった。ゲンゴロウとコガタノゲンゴロウの背面の色彩はよく似ているが、ゲンゴロウは体長35mm以上で腹面が黄褐色であり、一方でコガタノゲンゴロウは体長30mmをこえることはなく、腹面は黒色であることから両種の区別は容易である。コガタノゲンゴロウは福岡県レッドデータブックで絶滅危惧II類に選定されているが³⁾、近年採集例が増加しており、本年度にあった2件の問い合わせはその状況を反映しているものと考えられる。

また、不明種同定依頼のうちビワコカタカイガラモドキとニホンカブラハバチ(幼虫)については住宅地近郊で大発生した生物として持ち込まれた。

専門機関としての当所に持ち込まれるこれらの問い合わせは、県下で実際に起こっている生物に関する問題の現状を知る機会にもなりうるので、今後も記録を集積していきたいと考えている。末筆ながらクモ類の同定に際して種々ご教示いただいた国立研究開発法人農業環境技術研究所の馬場友希博士にこの場を借りてお礼申し上げる。

文献

- 1) 中島淳, 石間妙子, 須田隆一: 過去3年間(平成23-24年度)における生物(動物関係)に関する問い合わせ状況, 福岡県保健環境研究所年報, 40, 137-138, 2013.
- 2) 中島淳, 石間妙子, 須田隆一: 平成25年度における生物(動物関係)に関する問い合わせ状況, 福岡県保健環境研究所年報, 41, 151-152, 2014.
- 3) 福岡県: 福岡県レッドデータブック2014 福岡県の希少野生生物-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等一, 2014.